

## 国連防災会議パブリックフォーラム「平成26年度防災とボランティアのつどい」で講演を行いました(2015/3/15)

テーマ：災害ボランティア、共助  
場所：仙台シルバーセンター（仙台市青葉区）

3月15日（水）、仙台市青葉区の仙台シルバーセンターにおいて、内閣府（防災担当）主催、災害科学国際研究所の後援で、国連防災世界会議のパブリックフォーラムとして「平成26年度防災とボランティアのつどい～学べる、つながる、みんなで考える防災ボランティア～」が開催されました。このフォーラムにおいて、当研究所の人間・社会対応研究部門 防災社会システム研究分野 丸谷浩明教授が、オープニングメッセージとして講演を行いました。

「防災とボランティアのつどい」は、内閣府（防災担当）が毎年開催をしている行事で、本年は、国連防災世界会議を機に仙台で開催されました。今回の対象は、防災ボランティア活動に関心のある市民、活動経験のある市民、自治体職員、社会福祉協議会職員、NPO関係者、企業関係者、大学生・高校生とされ、防災ボランティアの担い手となる人々（特に中高生、大学生を含む若手）の裾野を広げること、及び、阪神・淡路大震災以降の防災ボランティア活動の歩みや展望を広く発信することを目的に開催されました。

丸谷教授のオープニングメッセージでは、参加者による災害ボランティア活動に関する議論のベースを確認するため、阪神・淡路大震災以来の災害ボランティア活動と政府の法律等によるボランティアの位置づけ、活動環境整備、行政との連携方策などについて説明を行いました。

その後、鍵屋 一 氏（法政大学大学院非常勤講師）をコーディネーター、菅磨志保 氏（関西大学社会安全学部准教授）をコメンテーターとしてパネルディスカッションが行われ、「阪神・淡路大震災」「新潟県中越地震」「東日本大震災」をきっかけにボランティア活動に関わりはじめた若手の活動者から、「何を想い」「なぜ被災者と向き合ったのか」「被災地に関わり続けるのか」などが話し合われました。

続いて、来場者の全員がグループに分かれ、今後発生が懸念される南海トラフ巨大地震の際に、災害ボランティアとして何ができるかをテーマに、ワークショップを行いました。災害ボランティア活動に関心を持ち始めた方々から長く災害ボランティア活動に関わってきた方々まで、様々な立場の参加者が、熱心に意見交換が行いました。



講演の様子

文責：丸谷浩明（人間・社会対応研究部門）